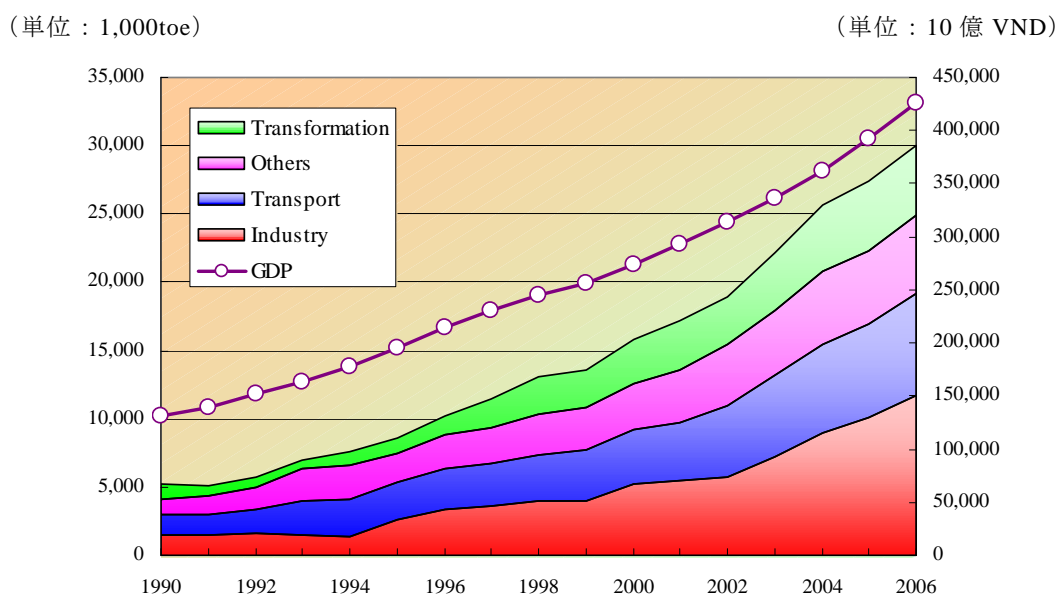


最新ベトナムエネルギー事情【要約】
企画事業ユニット 総括 表山 伸二

ベトナム経済は近年急激に伸びてきており、それに伴いエネルギー需要も経済成長を上回る勢いで伸びてきている。しかし、2006 年の国民一人当たり GDP は 724 ドルで、ASEAN 諸国のなかでも後発集団に属している。一人当たりエネルギー消費量も石油換算で年間 0.3 トン程度と少ない。国内では石炭、石油、天然ガス、水力、再生可能エネルギーなどを産し、これまでは自給自足型のエネルギー構造を維持してきたが、今後 10 年程度でベトナムのエネルギー供給構造は大きく輸入依存型に変わろうとしている。



(出所) 各種エネルギー供給会社情報より作成

ベトナムには現在、石油精製設備がなく国際石油市場から石油製品を輸入しているため、石油製品は国際価格に準拠しているが、国内石炭価格及び国内ガス価格は、発電所向けに安く設定されている。2006 年の発電用石炭価格は、約 20 ドル/トンの水準であったが、輸出用石炭は約 35 ドルであった。また、ガスについては、随伴ガス価格と天然ガス価格の 2 種類が存在している。ガス価格についても標準的な国際価格 7~8 ドル/mmBtu と比較しても遥かに低い状況である。石炭に関しては徐々に市場価格へ移行することを計画しているが、現在 (2008 年) も国内市場価格よりも 30%、輸出価格よりも 50% 安く設定されている。一方、電力価格は、政府の政策によりかなり低く抑えられており、平均でも 5 セント/kWh になっている。

しかしながら、石炭も石油も 2015 年頃から純輸入国に転じることが予想されており、電力需要の増大に伴いエネルギーの輸入が始まることになる。これまでの歪められたエネルギー価格を放置しておく、エネルギー輸入が始まる 2015 年頃に大きな混乱が起きることは明らかである。

お問合せ : report@tky.ieej.or.jp